

---

# **生まれ変わっても…**

央 8 4

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

生まれ変わつても…

### 【著者名】

ZZマーク

央84

### 【あらすじ】

身分違いの恋でした。生まれ変わつてもまた…。

そんな姫様と騎士の夢を見る二人。もしかしてこれは…！？

「貴方は残酷ね。

私に愛ばかりくれたくせに。」

綺麗な青い髪の王女が言つ。

いや、正しくは王女だった人だ。

願うことなら、俺は王女様を殺めたくはなかつたのに。

これもすべてあいつが…。

「呪つてやる、殺してやる、アイツを」

「姫様…」

生まれ変わつてもまた…。

嫌な夢を見た。

気付けば時計の針は遅刻の時間を指している。

「あ、――――――――――！」

朝からまた嫌な夢を見たとおもえれば今度は遅刻かよ。

「なんで起こしてくれなかつたんだよ…！」

母さんに八つ当たりする。

「だつて貴方不良でしょ？朝から行くと思わなかつたもの…

なんて失礼だ。

「ほり、ちゃんと食べないとまた成長しないわよ」

「あ、？」

「また男の子に間違われるわよ

「つっせー……」

改めまして、

私は西野 鷹。

IJの男っぽい名前と、男っぽい口調で学校では“女の皮を被つた男”とか言われてます。

さつきの夢でも男だつたしね…。

もう気にしてないよ…、気にしてない…。

「えへへー、鷹ちゃんおはよー」

「みい」

「今日も大遅刻だねー、へへー」

こいつは、親友つていえる、可愛い子ちゃん“芦原 美衣”。

通称みい。

「あのねー、今日はねープリン作つたんだよー」

「えらいえらい」

「一緒に食べよつねーへへー」

みいの作る手料理は本当にっこしい。  
マジでうますぎる。

「芦原さん」

「あつ、『めんねー』

「バカみい」

不意にみいを呼ぶ声。

その声が本当に透き通つてて、聞いたことのある声で。  
私が驚いていると、相手も驚いていた。

「邪魔して、『めん』

「いいよ、へへー

あ、渡くんも食べてかない? プリン。」

「遠慮しとくよ」

渡、わたりか。

まるでの夢の姫様みたいだった。

西野鶴（後書き）

初めましての方は初めまして。  
じんにちは・じんばんわ、央84です。

受験受験とか自分で言つてて新作です。  
ストックも出来たので、消さないです（多分）。

姫と騎士の

今日は本当にツイでない日だった。

そう例える事ができる一日だと自負できる。

朝から変な夢でうなされて起き。

宿題を忘れ。

ついには、僕の席に女の子が座ってる。

いや同性愛者とかじゃないんだけど、僕は女の子が怖い。  
しかも僕の席に座ってる女の子ー（たしか芦原さん）の話しかけてる相手は、

不良で有名な西野鷹。

僕、死にそう。

「芦原さん」

声が微かに震えた。

「あっ、ごめんねー」

「バカみい」

その声は夢で聞いたことのある、力強い声。  
僕が驚いて顔を上げたら、相手も驚いていた。

「邪魔して、ごめん」

僕はなんとか声を振り絞つて言った。

「いいよ、へへー

あ、渡くんも食べてかない？プリン。  
「遠慮しどくよ」

おいしそうなプリンを横目に、僕は友達のもとに戻った。  
なんだか、あの夢の騎士に似ているな、なんて思った。

「はじめまして騎士の御一方。

私は、リリア。リリア＝ファーナール。

リリアって呼んでください。」

「はじめまして、リリア様。

俺はドウ＝ラッセと申します

「はじめまして。

俺は、ホーク＝トロアです。」

頭をあげる二人に、私はときめいた。

白騎士・ドウ＝ラッセと黒騎士・ホーク＝トロア。

二人とも大層な美男子だった。

「つ……つー……」

「何やつてんだよ、<sup>りあ</sup>璃亞！」

「あ、え、ごめん……風間……」

「全く……ほら保健室行くぞ！」

彫刻刀で、思わず手を切つてしまつた。

また変な夢だ。寝てないのに。

「ごめんな、いっつも……」

「いや、別にいいし……！」

なんだこのツンデレ。

風間

刹那。

イケメンすきで羨ましい、幼なじみだ。

「よかつたな、怪我浅くて」

「しみる…」

「仕方ないだろ、消毒液つけてるんだから」

「わかつて…ついてつ…」

「我慢しろよ」

先生の代わりに手当をすする風間。  
すつじに男らしくグリグリやってきて痛いんですけど…。」

「うるせーー寝れないんだよ…」

「え、人？」

「あ…、西野さん…」

西野さんは何故か硬直してた。

リリアは、姫。

そして俺は、ホーク。

また変な夢だな。

と、堂々と保健室でサボって寝てたのに。

「しみる…」

渡の声…と。

「仕方ないだろ、消毒液つけてるんだから」

「わかつてる…ついてつ…！」

「我慢しろよ

「うぬせーー寝れないんだよーー」

思わず出でてしまった。

「え、人？」

「あ…、西野さん…」

硬直してしまった。

あの声は反則だろ。

いががわしそぎる…、と思つたのに。

「西野？璃亜の知り合い？」

「クラスメイトだよ」

渡の手が赤くなっている。

「…つお前…」

慌てて、優男が握っていた消毒液を回収した。

「傷口になににたくさん消毒液かけてるんだよー。ガーゼを畳んで、傷口に巻く。」

「つたく…。はい、終わり」  
「ありがとう、行こう風間。」

渡の笑顔がとても可愛かつた。  
そして、何故かこっちを向いた優男の視線が刺されたように痛か  
つた。

西野鷹 2（後書き）

怒濤の三連投！！央84です。  
なんでこんなにBしつぽくなつたのか分かりません。警告加えました。

評価や感想などお待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4888z/>

---

生まれ変わっても…

2011年12月20日20時55分発行